

多良岳

佐賀県・長崎県 2024年 7月20日

険しい修験の山に安らぎの花空間



<西野越> オオキツネノカミヅリが斜面にたくさん咲いている

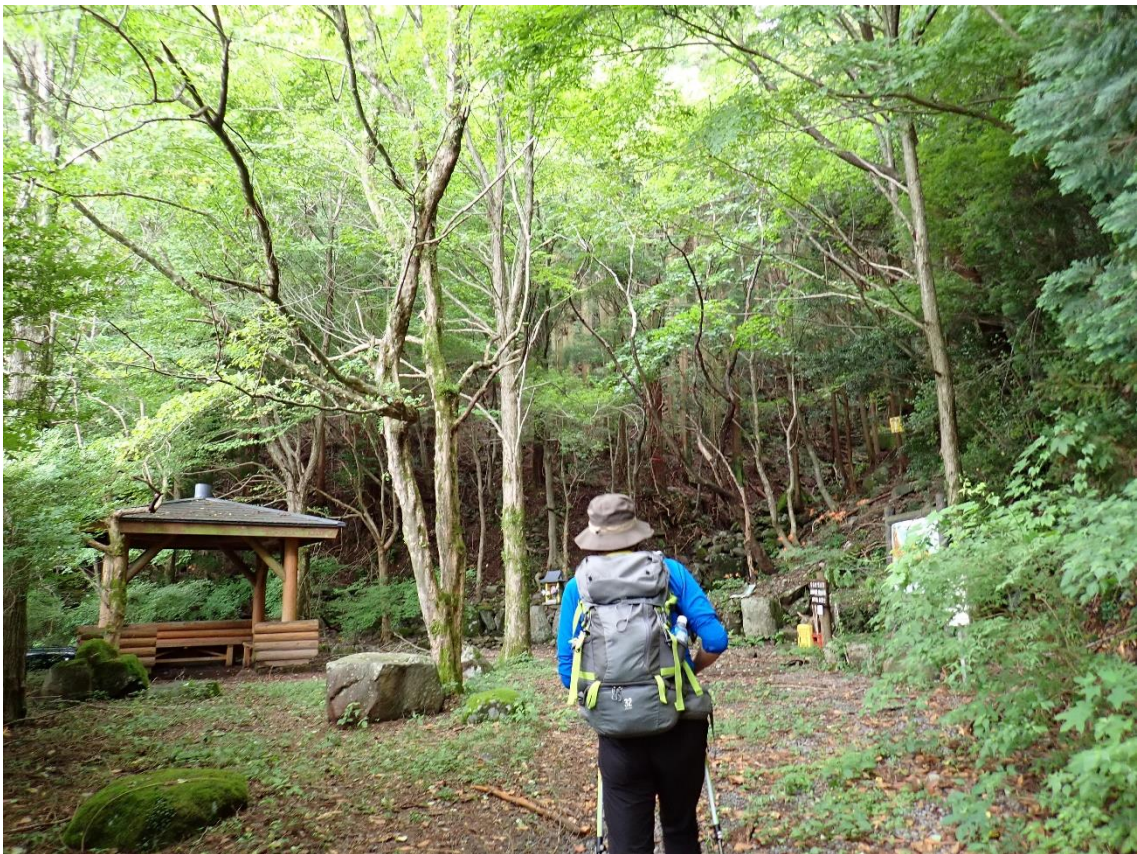
本日のコース <全行程 4時間32分>

金泉寺登山口 10:43 → 多良岳への分岐 11:15 → 金泉寺 11:16 →
西野分岐 11:35 → 西野越 11:41<お花畑を散策>12:01 → 西野分岐 12:04 →
金泉寺 12:15<昼食休憩>12:49 → 多良岳への分岐 12:51 → 役行者像 12:57 →
多良岳山頂 13:26 → 国見岳山頂 14:01 → 役行者像 14:41 →
多良岳への分岐 14:46 → 金泉寺登山口 15:15

多良岳は、佐賀県藤津郡太良町と長崎県諫早市高来町の県境に位置している。山頂には太良嶽神社上宮がある。今回、山頂へは最短で行ける金泉寺登山口を選んだが、まずは西野越に咲くオオキツネノカミヅリを觀賞することにした。多良岳の山容は以前から何度も車窓から眺め、いつかは登ってみたい山だった。多良岳山頂直下の険しい鎖場は、さすがに修験の道だけあって難儀した。



金泉寺登山口 10:43 車道から森の中に入っていくと…



森に入ると広い空間になっていた。



周辺案内図を見て、本日のルートを確認！



多良岳登山口 10:44 「金泉寺 営山小屋まで徒歩20分」と表示されているが…。

なんと登山口にオオキツネノカミソリが、ポツンポツンと咲いている。

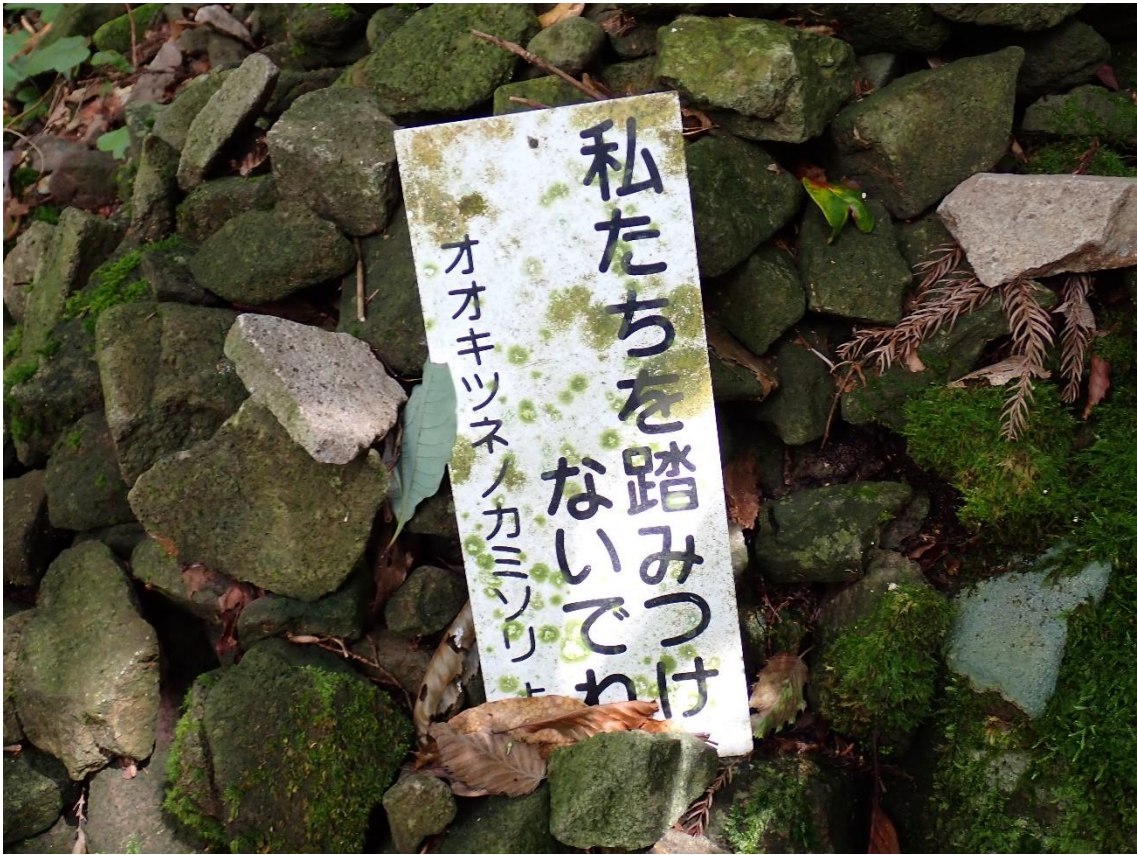
オレンジ色の花を見ると期待が膨らみ嬉しくなってしまう。西野越(群生地)が楽しみだ！



登山道を歩いていると、所々オオキツネノカミソリが顔を出す。



5分も歩くとすぐに汗が滲んできた 10:51 木洩れ日がいい感じ



オオキツネノカミソリからのメッセージ



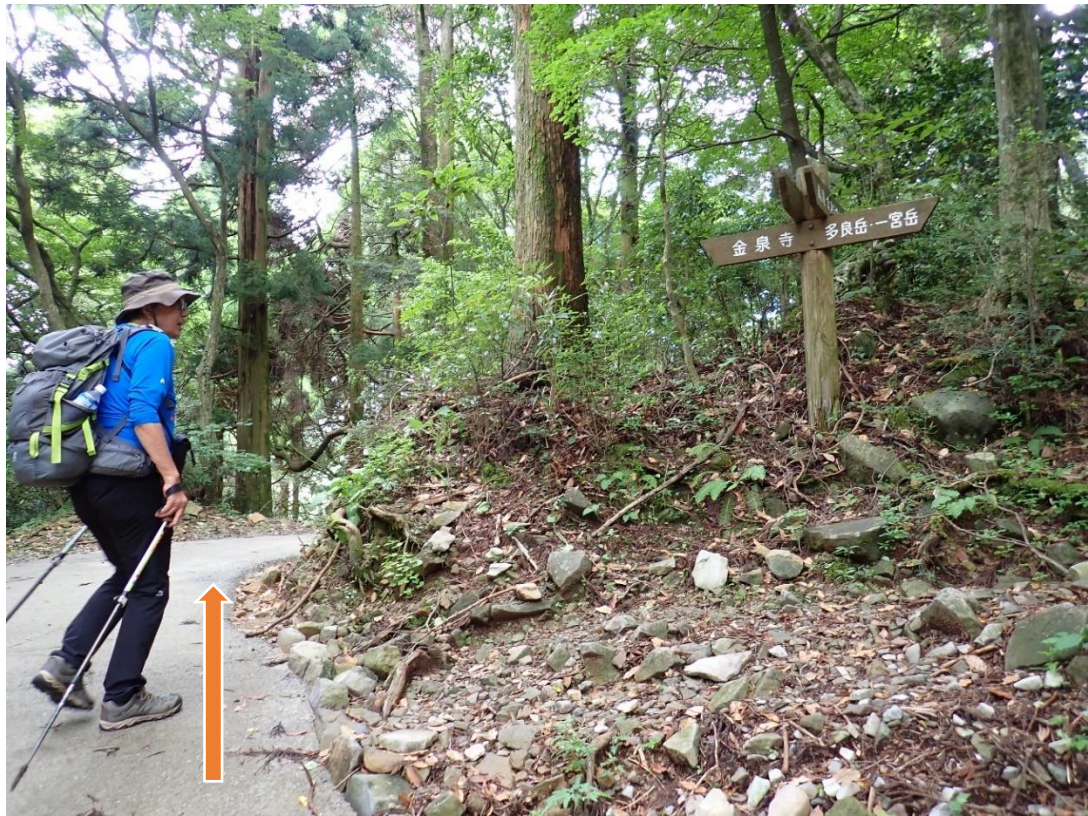
登山道で美しい野鳥の羽を拾った。この鳥は何だろう？
調べてみると「カケス」の可能性が高い。



林道に飛び出した 11:12 道標もあるので確認、確認！
実は金泉寺までは車でも行けるらしい。当然一般登山者は乗り入れ禁止だが、きつこの林道が金泉寺や山小屋関係者の利用する林道だろう。



左に進んで金泉寺を目指す 11:13



多良岳への分岐 11:15 ここは通過して金泉寺へ
先ずはオオキツネノカミソリを觀賞して、その後この分岐まで戻り多良岳へ登頂する予定だ。



金泉寺境内へ 11:16 山小屋も樹間(中央)から見えている
登山口には金泉寺まで20分と書いてあったが、結局我々は…33分(遅っ)



太良嶽山金泉寺(810年頃の創建) 高野山真言宗
日本一古い修験道場。縁起書には修験道の始まりが金泉寺だと記されている。



金泉寺の千手観音像と木造不動三尊像の説明標識 (諫早市教育委員会)
この標識の右手に伸びる登山道を進むと、経ヶ岳や笹ガ岳に通じているようだ。



金泉寺周辺の平面図

多良岳周辺は、豊かな自然と美しい景観から、昭和26年に県立自然公園に指定されました。この金泉寺の周辺には多良岳をはじめ、経ヶ岳、五家原岳、野岳等の山々が連なり、県内では数少ない山岳地帯となっています。

金泉寺は、平安時代のはじめ弘法大師が建てた真言宗のお寺です。昔は、高野山のように女人禁制の修練場で、民謡「岳の新太郎さん」に歌われた美男の寺侍、新太郎がいたと言われていた寺です。1574年には、キリシタンの焼き討ちにあいましたが、1663年諫早四代領主・茂真の援助を受け、阿闍梨法印覧海によって再興されました。（長崎県）





金泉寺山小屋(標高870m) 11:23 宿泊OK
この山小屋の左横を通り抜けて、オオキツネノカミソリが咲く西野越に向かう。



山小屋で使用する薪がたくさん積み上げられている 11:25



西野分岐 11:35 金泉寺から500m 歩くと西野の分岐に辿り着いた



この分岐を右折して100m下るとオオキツネノカミソリの群生地だ！



100m 程下ると斜面にオレンジ色の花がたくさん咲いていた 11:41

西野越（オオキツネノカミソリのお花畑を散策） 11:41~12:01



オオキツネノカミソリ(ヒガンバナ科)



ここにもオオキツネノカミソリからのメッセージ



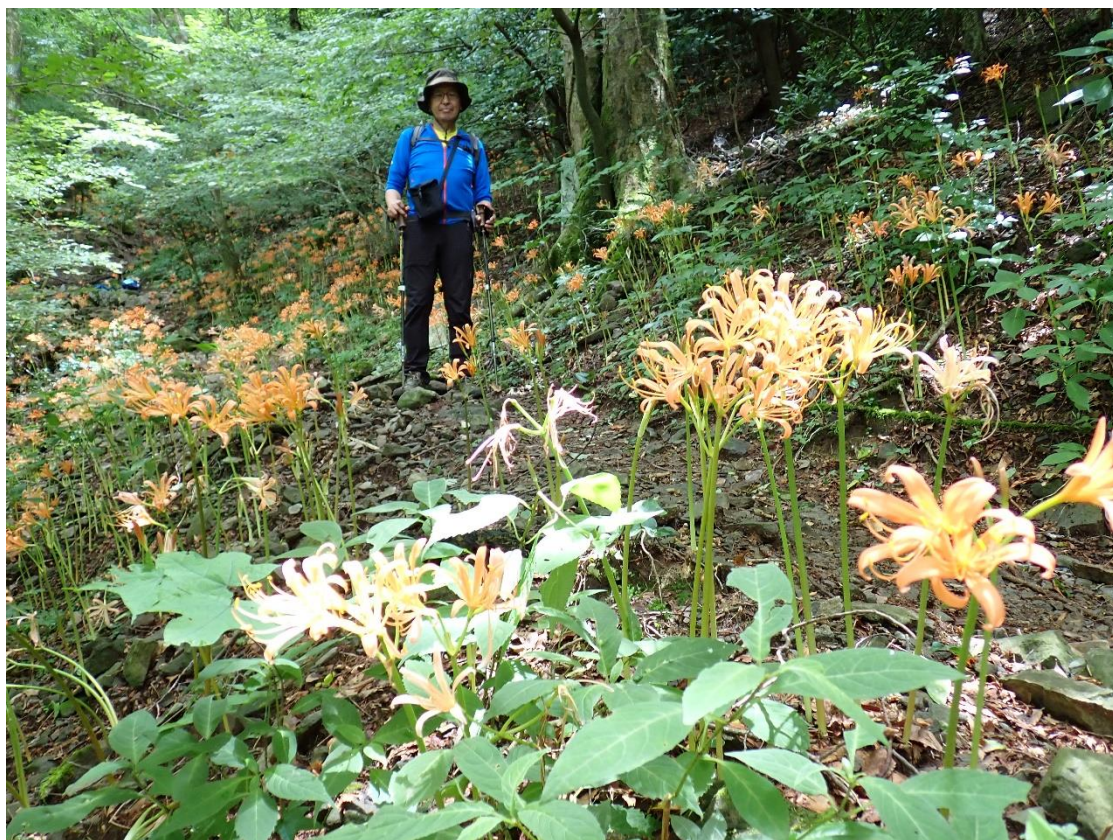
斜面に広がるオオキツネノカミソリは圧巻です！



蕾



雄しべ(6本)と雌しべが花弁から突き出ている



T師匠とオオキツネノカミソリの記念写真を撮って散策終了。この後、Uターンして金泉寺へ。



西野分岐 12:04 山小屋のベンチで昼食にするはずだったが…



金泉寺山小屋 12:14 山小屋周辺のベンチは団体登山客で満席
なんとオオキツネノカミソリ観賞のツアー客でごった返していた

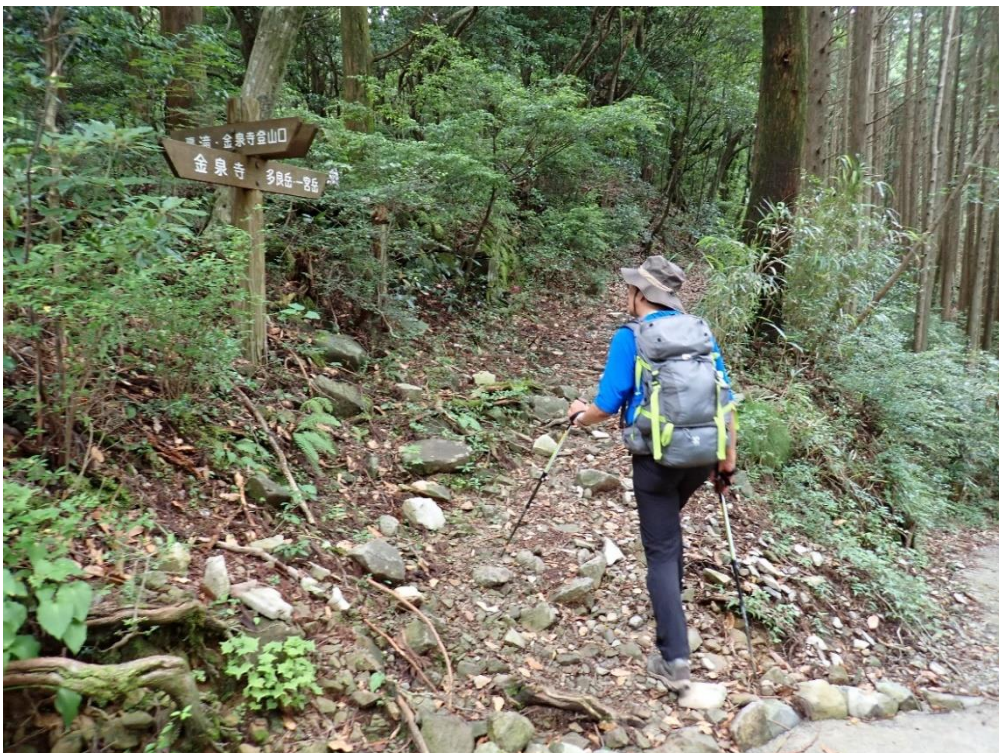


オオキツネノカミソリのシーズンは登山客が多い
先ほど(50分前)山小屋を通過した際はガラガラだったので驚いた。



金泉寺前のベンチが空いていたので、ここで昼食休憩 **12:15~12:49**

我々が昼食中、団体登山客がガイドさんに連れられてオオキツネノカミソリ観賞に出発した。団体の登山客はベンチにザックをデポして身軽になってゾロゾロと出かけて行った。約50人の団体さんだったので、西野越で一緒になったらゆっくり撮影することは難しかっただろう。



昼食を終え往路で通過した多良岳への分岐に戻ってきた **12:51**



多良岳への分岐 12:51 これから多良岳と国見岳を目指す！



石段に差し掛かり、上を見ると鳥居が現れた 12:56



鳥居を潜ると左に石像が鎮座している



役行者(えんのぎょうじゃ)像 12:57 下駄が供えられている
今度訪れる際は下駄を持参しようと思った。

役行者(えんのぎょうじゃ)

7世紀後半の山岳修行者。本名は役小角(えんのおづぬ)。役優婆塞(えんのうばそく)ともいう。日本の山岳宗教である修験道(しゅげんどう)の開祖として崇拝され、江戸末期には神変大菩薩(じんぺんだいぼさつ)の諡号(しごう)を勅賜された。多くの奇跡が伝えられるので、実在を疑う人もあるが、『続日本紀(しよくにほんぎ)』文武(もんむ)天皇3年(699)5月24日条に、伊豆島に流罪された記事があり、実在したことは確かである。(ネット調べ)



役行者と一本歯の下駄の由来

石鳥居の側に白髭を生やし、下駄をはいた石像(役行者)の前に新、古の下駄(一本歯)が数多く供えられている。そのいわれは平安朝の末期頃の行者が山岳仏教を布教して全国を歩き巡り、道を開き、堤をつくり、橋をかけて庶民を救済し、山から山へと一本歯の下駄をはいて巡られた。里民、その徳を慕って行者を祀る。

今、一本歯の下駄を供えるのは、行者が一本歯の下駄をはいて廻られた脚力に感じてその靈力にあやかり腰痛、手・足の関節炎、神経痛の祈願をこめて、その願成就の御礼に供えるものであります。(太良町商工水産課・説明標識より)



多良岳では登山道の随所にレスキューポイントの看板が設置されている。
ありがたいことであるが、これを利用することないよう安全登山に心がけよう！



大杉の切り株の横を上る 13:08 樹齢350年の杉の木。落雷したため切り倒された。
この辺りから険しい修験道となり、気を引き締めて上った。



梵字岩

高い岩壁に梵字が刻まれている。誰がどのように刻んだのか謎である。



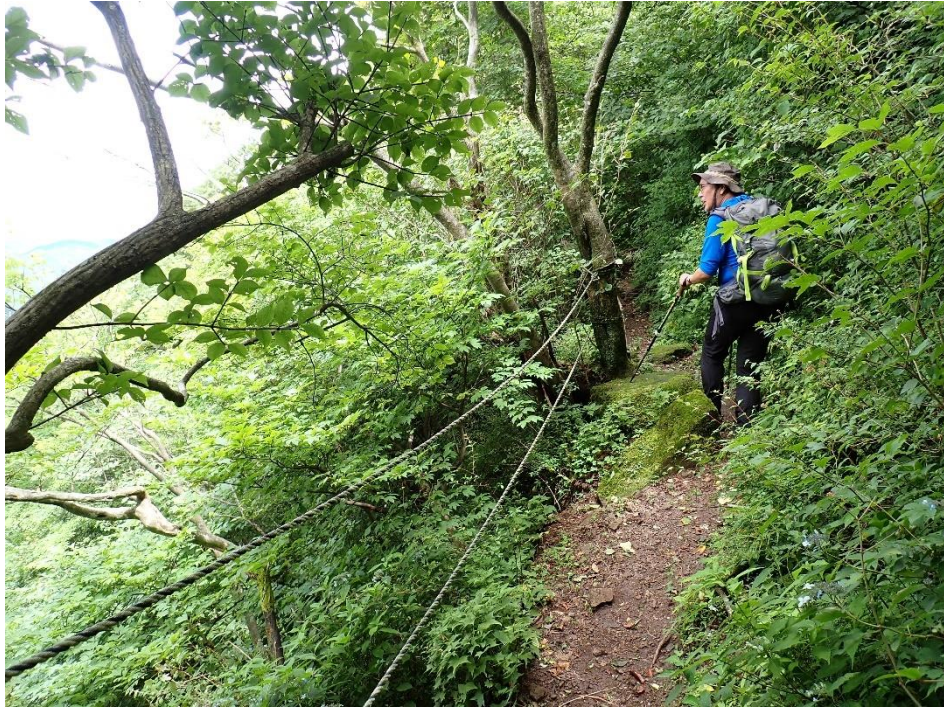
太いロープを握りしめ、厳しい修験の道を行く 13:17 多良岳山頂まであと少し



鎖場を慎重に進む 13:38 左は切れ落ちている
江戸時代この難所に鎖場が作られた。山頂周辺には罪人を落とした場所もあるとか？(怖)



観音様が見守っている



視界が開けたが・・・ 13:23 ここも危ない場所、滑落注意！



深呼吸。気分が晴れる。



山頂までの最後の上り。石段が崩れているので要注意！



ここにも観音様。お顔を見るとホッとする。



多良岳山頂 13:26 狭い山頂しかも視界は殆ど木々で遮られていた
視界が効くのは三か所程度の木々の隙間のみ。



お椀を伏せたような、独特の形をした経ヶ岳が見える。



太良嶽神社上宮



太良嶽三柱大神が奉られており、今もなお密教的な雰囲気漂っている。

言い伝え

その昔、多良岳の神様がこの地に来る際、船が沈没しそうになったところをエビに助けもらったという言い伝えがあり、今もなお、地元の人々は多良岳に登るときは、エビを食べないという。(太良町パンフレットより)



山頂碑で記念撮影をした後、下山開始。



多良岳山頂碑 996m



ヤマアジサイ 13:57



人吉・カメさんの「山頂まで5分」のプレートから右へ 13:59 三国岳に寄り道



国見岳山頂 14:01 とても狭い山頂と小さな山頂碑(赤矢印)



小さな山頂碑 994m

人吉・カメさんのプレートまで戻って往路を下る



鎖場を下る 14:08 湿った苔むす岩を見ると足の置き場がなかなか決まらない



怖い、怖い。腰を低くして滑らないように慎重に下る。



十六羅漢(上部の石像)と観音様(下の石像)

16人の羅漢像。この羅漢像によって女人禁制が解かれたとのこと。

十六羅漢は、お釈迦様が亡くなったとき、「仏教をたのむ」と遺言を託された十六人の弟子。

休憩しながらキノコ観賞



ツリガネタケ？



？

多良岳の主?のような大木を見上げる



アカガシ

ブナ科

常緑広葉樹

幹に生えた苔はフカフカ



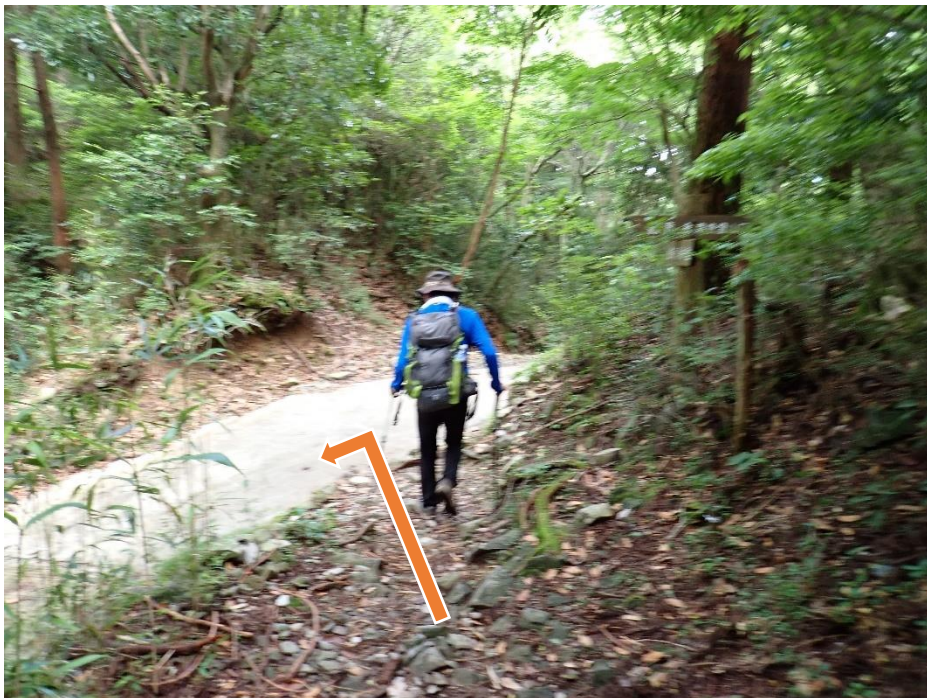
石段をゆっくりゆっくり下る 14:38



役行者像まで戻ってきた 14:41



鳥居を潜り下って行く 14:41



多良岳への分岐 14:46 林道に出て左へ



林道から再び登山道へ 14:47 植林帯を下って行く



切り株に黄緑色の苔が円形について面白い



登山口が見えてきた 15:12 安心せず最後まで慎重に！



金泉寺登山口 15:14 無事にゴール



森を出て駐車場へ帰ってきた 15:15 4時間32分の山歩きが無事に終了
スマホの歩数計は9691歩。T師匠今日もお世話になりました。
お疲れさまでした。



雲仙岳を一望

登山口から車で帰る途中、雲仙岳の見事なパノラマが目に飛び込んできた。
久しぶりに普賢岳に登りたくなりました。